

令和4年度

事業報告



ご あ い さ つ

日本赤十字社石川県支部

支部長 馳 浩

赤十字活動の推進につきましては、平素より県民の皆様及び地区・分区はじめ関係の皆様から深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和4年度の支部事業については、依然として新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、一部の事業が変更や中止となりましたが、コロナ禍に対応した運用に切り替えることにより、救急法や健康生活支援講習等の普及のほか、奉仕団及び青少年赤十字活動の育成や国際活動などを実施することができました。

赤十字の使命である災害救護事業については、救護班を派遣するような災害はなかったものの、昨年8月に加賀地方を中心として発生した記録的大雨においては、赤十字奉仕団員がボランティアセンターでの本部運営や被災した民家の片付けなど、現地のニーズに応じた活動を行ってきました。このような身近なところで発生した災害を通して、改めて近い将来に発生が危惧される首都直下地震、南海トラフ地震などの災害に備えた救護・救援体制の整備・充実に努めていく必要性を痛感しており、令和4年度は県が開催する訓練への参加や支部災害対策本部運用訓練の実施など、より高度な知識・技術の習得に努めました。

石川県支部では、地域課題の解決に積極的にチャレンジし、より良い地域づくりに貢献するため、令和4年度より新たなプロジェクト「ACTION! 4」を立ち上げ活動を行ってきました。この活動は、住民、企業、行政、赤十字の4者が緊密に連携しながら、4つの取り組み（人命救助、防災・減災、感染防止、無病息災）を行うもので、地域奉仕団が赤十字応援野菜を栽培し販売するなどの新たな事業にもチャレンジしてきました。

また、日頃の備えとしての救急法や健康生活支援講習、幼児安全法等の普及、赤十字奉仕団の育成強化や青少年赤十字活動の推進のほか、海外赤十字社に対する支援活動等を実施いたしました。こうした国内外における赤十字事業の財源は、県民の皆様からお寄せいただく「社資」によって支えられております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

金沢赤十字病院では、新型コロナウイルスに感染した患者の受け入れを継続的に行いながら、地域における中核病院・災害拠点病院として、施設・設備の充実を図り、安全で質の高い医療サービスを提供するとともに、地域に根差した最適な医療を提供するため、地域包括ケア病棟等を有効に活用し、更に地域医療連携強化、救急医療の充実を図ることにより、地域の幅広い医療ニーズに対応できるよう努めてきました。

赤十字血液センターにつきましても、国内献血による国内自給を基本理念とした安全で安心できる血液確保が求められており、県民の皆様方の献血により、医療機関が必要とする輸血用血液を安定供給することができました。

日本赤十字社ではこれからも地域課題の解決に努め、より良い地域づくりに貢献するとともに、ウクライナでの人道危機対応を支援するための募金活動などにも取り組んでまいります。

最後になりますが県民の皆様方におかれましては、今後とも赤十字事業に対しまして、温かいお力添えを賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

目 次

1	評議員会等の開催状況	1
(1)	評議員会	1
(2)	監査委員による監査	2
(3)	石川県日赤紺綬有功会総会	2
(4)	表彰式	3
2	社資収納状況調	4
(1)	令和4年度社資収納実績	4
(2)	社資収納額の推移（10年間）	4
(3)	令和4年度地区・分區別一般社資収納状況	5
(4)	令和4年度金沢市地区内分區別一般社資収納状況	6
(5)	令和4年度納入会費額別会員（個人）数	7
(6)	令和4年度納入会費額別会員（法人）数	8
(7)	令和4年度紺綬褒章、感謝状及び有功章受章者数	8
3	義援金・海外救援金	9
(1)	義援金	9
(2)	海外救援金	9
(3)	日本放送協会との共催による「NHK海外たすけあい」（海外救援金）	9
4	災害救護体制	10
(1)	救護班	10
(2)	救護要員用装具の保有状況	10
(3)	救護用資機材の保有状況	11
(4)	NBC災害用資機材	11
(5)	DMAT装備	12
(6)	地区・分区における救援車配備・整備状況	12
5	災害救護・救援活動及び訓練	13

(1) 災害救護・救援活動	13
(2) 防災訓練等への参加	13
(3) 救護員に対する研修	15
(4) 防災教育事業	15
6 救 援 物 資	16
7 その他救護活動	17
8 看 護 師 養 成	17
9 救急法・健康生活支援講習等の普及	18
(1) 講習会の開催状況（総括）	18
(2) 養成講習会等の開催状況	19
(3) 開催地別講習会開催状況	21
(4) 救急法等指導員在籍状況	22
(5) 指導員の研修等	22
10 赤 十 字 奉 仕 団	23
(1) 地域赤十字奉仕団の結成状況	24
(2) 青年赤十字奉仕団の結成状況	25
(3) 特殊赤十字奉仕団の結成状況	25
(4) 赤十字奉仕団石川県支部委員会の開催	25
(5) 赤十字ボランティア研修会の開催	25
(6) 赤十字奉仕団による共働作業の活動	25
(7) 奉仕団員による災害復旧支援活動	26
(8) 『ACTION！無病息災プロジェクト』	27
11 青 少 年 赤 十 字	28
(1) 青少年赤十字の加盟校（園）の状況	28
(2) 指導体制の充実・強化	29
(3) メンバーの活動状況	30
(4) 国際理解・親善活動	30
(5) ボランティア活動	30

(6) 普及活動	30
(7) 指導用教材資料の貸し出し	30
12 国際活動	31
13 医療事業	32
(1) 患者数	33
(2) 診療科別患者数	33
(3) 診療単価等	33
14 医療・保健等の社会事業	34
15 血液事業	34
(1) 安全な血液製剤の安定供給	34
(2) 献血者の安定的確保	35
(3) 効率的な事業運営	36
(4) 持続可能な血液事業（事業の活性化）の推進	36
(5) 造血幹細胞事業の推進	37
(6) 献血・血液製剤供給状況等（令和4年度）	37
16 決算状況	39
(1) 令和4年度一般会計石川県支部歳入歳出決算書	39
(2) 令和4年度医療施設特別会計歳入歳出決算書	40
17 日本赤十字社石川県支部役員名簿	41

1 評議員会等の開催状況

令和4年度における評議員会等の開催状況は、次のとおりである。

(1) 評議員会

第1回評議員会

期 日 令和4年6月22日(水)

会 場 石川県赤十字血液センター 2階 大会議室

出席者 評議員 31名(委任状を含む)、役員・参与 11名

議 事

- ・議案第1号

令和3年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出決算等の承認について

第2回評議員会

期 日 令和5年2月1日(水)

会 場 石川県赤十字血液センター 2階 大会議室

出席者 評議員 32名(委任状を含む)、役員・参与 11名

議 事

- ・議案第1号

令和4年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出補正予算(案)について

- ・議案第2号

令和5年度 事業計画(案)及び地区分區別社資目標額(案)について

- ・議案第3号

令和5年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出予算(案)について

- ・議案第4号

役員改選(案)について

令和5年2月13日で任期満了となる監査委員の江口介一氏が再任された。

報 告

- ・石川県支部選出本社理事の推薦について

令和5年3月31日をもって任期満了となる石川県支部選出本社理事の中西一順氏の後任として田谷正氏を本社に推薦することを報告した。

(2) 監査委員による監査

期 日 令和4年6月3日(金)

会 場 日本赤十字社石川県支部 講習室

出席監査委員 岸弘市氏、高澤良英氏

日本赤十字社石川県支部一般会計、金沢赤十字病院特別会計の令和3年度歳入歳出決算及び石川県赤十字血液センターの業務に係る監査が実施され、いずれも適正であると認定された。

(3) 石川県日赤紺綬有功会総会

期 日 令和4年12月16日(金)

会 場 ANAクラウンプラザホテル金沢

出席会員 20名

議 事

- ・ 役員の変更について
- ・ 令和3年度石川県日赤紺綬有功会事業報告及び収支決算の承認について
- ・ 令和4年度石川県日赤紺綬有功会事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について

その他

- ・ 赤十字活動の近況報告
- ・ いしかわ百万石文化祭2023の紹介
 - ・ 文化祭の概要説明
 - ・ 杉山民謡会 西房 唯・亜美姉妹の民謡ステージ



石川県日赤紺綬有功会総会



民謡ステージ

(4) 表彰式

期 日 令和4年9月2日(金)

会 場 石川県庁行政庁舎 4階 特別会議室

表 彰

日本赤十字社金色有功章

個人1名、法人3社

日本赤十字社銀色有功章

個人2名、法人1社

日本赤十字社社長感謝状

個人4名、法人3社

石川県支部長感謝状

個人2名、法人1社

厚生労働大臣感謝状

個人1名

紺綬褒章

法人1社



金色有功章伝達式



記念写真

2 社資収納状況調

(1) 令和4年度社資収納実績

区 分		令和4年度			令和3年度 実績額(B)	増減額 (A)-(B)
		目標額	実績額(A)	達成率		
一般社資	地区分区扱	千円 134,006	千円 111,009	% 82.8	千円 113,027	千円 -2,018
	支部直扱	11,994	42,687	355.9	34,824	7,863
	計	146,000	153,696	105.3	147,851	5,845
法人社資		12,000	19,084	159.0	23,802	-4,718
計		158,000	172,780	109.4	171,653	1,127

(2) 社資収納額の推移(10年間)

年 度	一般社資		法人社資		計	
	金額	前年度比	金額	前年度比	金額	前年度比
平成25年度	千円 140,538	% 98.2	千円 9,653	% 92.9	千円 150,191	% 97.9
26	138,925	98.9	10,088	104.5	149,013	99.2
27	151,140	108.8	11,747	116.4	162,887	109.3
28	142,579	94.3	12,079	102.8	154,658	94.9
29	136,398	95.7	10,823	89.6	147,221	95.2
30	137,373	100.7	10,137	93.7	147,510	100.2
令和元年度	146,615	106.7	12,798	126.3	159,413	108.1
2	172,876	117.9	14,762	115.3	187,638	117.7
3	147,851	85.5	23,802	161.2	171,653	91.5
4	153,696	104.0	19,084	80.2	172,780	100.7

(3) 令和4年度地区・分區別一般社資収納状況

地区・分區	目標額	実績額	達成率	前年度比
金 沢 市	51,401,000 ^円	37,078,325 ^円	72.1 [%]	95.9 [%]
七 尾 市	7,073,000	6,175,318	87.3	98.1
小 松 市	11,634,000	9,648,466	82.9	90.0
輪 島 市	3,724,000	3,553,650	95.4	107.8
珠 洲 市	1,685,000	1,321,649	78.4	88.8
加 賀 市	7,283,000	5,212,760	71.6	98.8
羽 咋 市	2,795,000	2,509,500	89.8	95.7
か ほ く 市	4,295,000	4,306,349	100.3	98.1
白 山 市	11,990,000	10,202,433	85.1	99.8
能 美 市	5,466,000	6,112,860	111.8	118.5
野 々 市 市	6,906,000	7,380,406	106.9	104.2
川 北 町	578,000	603,574	104.4	93.0
津 幡 町	5,209,000	4,613,292	88.6	102.3
内 灘 町	3,188,000	2,723,457	85.4	94.5
志 賀 町	3,437,000	2,431,735	70.8	91.1
宝 達 志 水 町	1,594,000	1,440,165	90.3	98.0
中 能 登 町	2,092,000	2,107,874	100.8	101.6
穴 水 町	1,155,000	1,234,400	106.9	100.4
能 登 町	2,501,000	2,352,790	94.1	101.5
合 計	134,006,000	111,009,003	82.8	98.2

(4) 令和4年度金沢市地区内分區別一般社資収納状況

分区分名	目標額	実績額	達成率	前年度比	分区分名	目標額	実績額	達成率	前年度比
野 町	790,000	473,246	59.9	103.0	三 和	909,000	734,060	80.8	110.8
弥 生	888,000	582,709	65.6	102.1	三 馬	1,280,000	659,480	51.5	103.9
中 村 町	933,000	528,800	56.7	89.6	米 泉	731,000	603,857	82.6	100.2
十 一 屋	712,000	484,510	68.0	88.7	富 樫	885,000	418,950	47.3	79.9
泉 野	1,588,000	1,479,820	93.2	98.8	伏 見 台	1,135,000	618,771	54.5	100.9
長 坂 台	881,000	599,360	68.0	93.9	額	878,000	554,638	63.2	89.1
新 豎 町	936,000	442,400	47.3	96.9	四 十 万	471,000	241,505	51.3	85.5
菊 川	1,072,000	836,649	78.0	97.6	扇 台	1,056,000	971,038	92.0	102.3
材 木 町	1,257,000	656,912	52.3	95.7	長 田 町	713,000	465,400	65.3	98.8
味噌蔵町	1,127,000	698,029	61.9	92.2	戸 板	963,000	717,277	74.5	102.5
長 町	332,000	282,000	84.9	87.7	西	531,000	415,258	78.2	89.7
松ヶ枝	418,000	436,300	104.4	99.8	二 塚	850,000	620,188	73.0	94.7
長 土 塀	715,000	664,502	92.9	105.3	安 原	782,000	508,150	65.0	97.2
芳 斉	449,000	356,989	79.5	103.9	大 徳	2,556,000	1,550,028	60.6	93.5
此 花	282,000	243,400	86.3	109.1	金 石 町	1,259,000	907,183	72.1	90.2
瓢 箆	611,000	460,900	75.4	98.0	大 野 町	364,000	281,735	77.4	95.9
馬 場	581,000	531,932	91.6	95.5	小 立 野	1,290,000	1,104,234	85.6	99.4
浅 野 町	702,000	418,820	59.7	95.6	崎 浦	2,220,000	1,767,814	79.6	96.4
森 山	1,303,000	854,549	65.6	92.7	内 川	115,000	100,350	87.3	93.5
小 坂	1,643,000	1,346,354	81.9	98.7	犀 川	468,000	272,940	58.3	83.1
千 坂	1,270,000	958,663	75.5	89.6	湯 涌	143,000	167,300	117.0	94.5
夕 日 寺	657,000	578,834	88.1	95.7	田 上	993,000	627,723	63.2	91.7
諸 江	1,434,000	830,740	57.9	97.4	東 浅 川	101,000	102,000	101.0	100.0
浅 野 川	541,000	397,769	73.5	97.6	俵	46,000	58,500	127.2	84.3
鞍 月	761,000	661,665	86.9	90.1	医 王 山	96,000	105,700	110.1	102.5
粟 崎	637,000	616,170	96.7	103.8	森 本	657,000	401,391	61.1	73.9
川 北	341,000	238,361	69.9	90.4	花 園	375,000	249,100	66.4	76.2
大 浦	920,000	587,515	63.9	89.0	湖 南	689,000	550,000	79.8	100.0
米 丸	1,656,000	1,124,679	67.9	96.4	薬 師 谷	368,000	258,391	70.2	104.7
新 神 田	590,000	489,052	82.9	86.8	三 谷	217,000	217,500	100.2	100.2
押 野	1,254,000	1,140,176	90.9	95.6	市 直 扱	0	100,000	0.0	-
西 南 部	979,000	726,059	74.2	99.2	金 沢 計	51,401,000	37,078,325	72.1	95.9

(5) 令和4年度納入会費額別会員(個人)数

地区区分名	2千円 以上	3千円 以上	5千円 以上	1万円 以上	2万円 以上	3万円 以上	5万円 以上	10万円 以上	20万円 以上	50万円 以上	100万円 以上	人 数
金 沢 市	867	230	158	68	9	5	1					1338
七 尾 市	1			10	37			2				50
小 松 市					22							22
輪 島 市	1					1	1	1		1		5
珠 洲 市	1		1									2
加 賀 市				3								3
羽 咋 市	2											2
かほく市	48	7	9	3	2	2						71
白 山 市	20	4	6	5	19							54
能 美 市	8	2	3	2	2						1	18
野々市市			1									1
川 北 町					7							7
津 幡 町	28		3	4	1		1		2			39
内 灘 町	30	3		4								37
志 賀 町	39	21	7	7	6			1				81
宝達志水町												
中能登町	16			2	4							22
穴 水 町								1				1
能 登 町				1								1
地区分区計	1061	267	188	109	109	8	3	5	2	1	1	1754
支部直扱	522	372	327	392	102	63	38	24	11	4	1	1856
個人合計	1583	639	515	501	211	71	41	29	13	5	2	3610

(6) 令和4年度納入会費額別会員(法人)数

	2千円 以上	5千円 以上	1万円 以上	2万円 以上	5万円 以上	10万円 以上	20万円 以上	50万円 以上	100万円 以上	人 数
法 人	53	53	88	268	16	11	8	1	1	499

(7) 令和4年度紺綬褒章、感謝状及び有功章受章者数

表 彰 区 分	功 労 区 分	個 人	法 人	地区分区	団 体	計
紺 綬 褒 章	社 資 功 労	1				1
厚生労働大臣感謝状	社 資 功 労	2				2
日本赤十字社社長感謝状	社 資 功 労	9	6			15
金 色 有 功 章	社 資 功 労	6	4			10
	業 務 功 労	1				1
銀 色 有 功 章	社 資 功 労	8	3			11
	業 務 功 労					0
支 部 長 感 謝 状	社 資 功 労	1	2			3
総 計		28	15	0	0	43

3 義援金・海外救援金

国の内外において発生した災害等による被災者に対し、県民から寄せられた義援金等の受付状況は次のとおりである。

なお、(1)義援金のうち、加賀地方中心に大きな被害のあった令和4年8月3日からの大雨災害の義援金については、全国の赤十字から寄せられた合計額である。

(1) 義 援 金

災 害 等 名	件 数	金 額
平成30年7月豪雨災害義援金	3件	21,776円
令和2年7月豪雨災害義援金	7件	82,353円
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	3件	70,100円
令和4年7月大雨災害義援金	2件	17,230円
令和4年台風第15号災害義援金	3件	162,291円
計	18件	353,750円

災 害 等 名	件 数	金 額
令和4年8月3日からの大雨災害義援金(全国分)	64件	28,522,692円
計	64件	28,522,692円

(2) 海外救援金

災 害 等 名	件 数	金 額
アフガニスタン人道危機救援金	2件	110円
ウクライナ人道危機救援金	106件	9,598,763円
2022年アフガニスタン地震救援金	2件	413円
2022年パキスタン洪水救援金	2件	521円
2023年トルコ・シリア地震救援金	49件	4,792,733円
計	161件	14,392,540円

(3) 日本放送協会との共催による「NHK海外たすけあい」(海外救援金)

災 害 等 名	件 数	金 額
N H K 海 外 た す け あ い	360件	1,107,265円

義援金・海外救援金合計 44,376,247円

4 災害救護体制

(1) 救護班

令和4年度における救護要員の登録状況は次のとおりである。

災害対策本部要員	39人
救護班要員	48人
血液供給要員	18人
特殊救護員	5人
計	110人

救護班は8個班編成することとしている。

救護班の標準編成基準

医師	看護師長	看護師	主事	計
1人	1人	2人	2人	6人

(注) 編成については、救護業務の状況に応じ個々の基準人員を増減し、また、必要に応じ薬剤師、助産師、特殊救護員を加える。

救護班要員48人の内訳

職種	要員数
医師	8人
看護師長	8
看護師	16
主事	16

(金沢赤十字病院)

(2) 救護要員用装具の保有状況

(令和5年3月末現在)

品名	数量	品名	数量
作業衣(帽子・バンド含む)	112着	ヘルメット	37個
雨衣	56着	ヘッドライト	20個
防寒具	34着	寝袋(シュラフ)	12枚
作業靴	32足	防災ボランティア用夜光反射ベスト	80着
夜光反射ベスト	56着	防災ボランティア用ヘルメット	80個

(3) 救護用資機材の保有状況

(令和4年3月末現在)

整備区分	整備数	管 理 者				整備区分	整備数	管理者			
		支 部	病 院	血 液 センター	地区・分区			支 部	病 院	血 液 センター	地区・分区
業務無線基地局	2局	2				投 光 機	14基	14			
業務無線車載局	31局	12	3	16		簡易ベッド	165基	24	100		41
業務無線携帯局	23局	23				担 架	63基	12	10		41
アマ無線局	4局	4				簡易処置台	13台	5	8		
救 急 車	1台		1			医療セット	3組	1	2		
救 援 車	32台	4			28(1)	携帯型医療セット	2組	2			
連 絡 車	8台	1	1	6		浄 水 器	4機	1	3		
採 血 車	3台			3		簡易トイレ	12器	12			
採血検査車	3台			3		ツルハシ	2本	2			
血液輸送車	8台			8		ス コ ッ プ	4本	4			
資材輸送車	2台			2		レスキューボード	3機	3			
車両搭載用救急セット	39組	4			35	バックボード	1個	1			
救護用エアテント	2張	2				シュノーケル	10個	10			
救護テント	196張	11			185	マ ス ク	10個	10			
奉仕団テント	52張				52	フ ィ ン	10個	10			
発 電 機	8基	8									

(注) () は、令和2年度に新規購入又は更新した数量で内書き。

(4) NBC災害用資機材

(N : Nuclear 「核」、B : Biological 「生物」、C : Chemical 「化学」)

品 目	数 量	品 目	数 量
除 染 テ ン ト	1	防 護 マ ス ク	12
防 護 服 セ ッ ト	12	除 染 済 者 セ ッ ト	50
A E D	2		

(5) DMAT装備

(DMAT : Disaster Medical Assistance Team)

品 目	数 量	品 目	数 量
ポータブル人工呼吸器	1	輸液ポンプ	1
ポータブル吸引器	1	簡易型心電図モニター	1

(6) 地区・分区における救援車配備・整備状況

(令和5年3月現在)

配 備 先	登 録 日	車 種 (型式)	配 備 先	登 録 日	車 種 (型式)
七 尾 市	R 4. 1.11	ワゴン	川 北 町	H17. 5.26	ワゴン
小 松 市	H23. 9.14	ライトバン	野々市市	H14. 5.31	ワゴン
	H29. 9.22	ワゴン		H16. 7.29	ワゴン
輪 島 市	H25. 8.30	ワゴン	津 幡 町	H25. 9.19	ワゴン
	H30. 9.18	ワゴン	志 賀 町	H24. 9. 6	ワゴン
珠 洲 市	H22. 8.26	ワゴン	宝達志水町	H14. 8.23	ワゴン
加 賀 市	H22. 9.14	ワゴン		H29. 8.24	ワゴン
羽 咋 市	H29. 2.17	ワゴン	中 能 登 町	H18. 9.28	ワゴン
か ほ く 市	H26. 7.23	ワゴン		H23.11.14	ワゴン
	R 1. 7.22	ワゴン	穴 水 町	R 3. 7.28	ワゴン
白 山 市	H15. 3.19	ワゴン	能 登 町	H21. 6.10	ワゴン
	R 2. 9. 4	ワゴン		H28. 3.29	ワゴン
能 美 市	H19. 5.25	ワゴン	計	26台	
	H28. 7.26	ワゴン			

(注) 平成10年度から市町又は地区・分区が取得(登録)する災害救援用車両に対し、取得費の(100万円限度)を助成している。

平成23年度より、助成額の上限を取得費の(70万円限度)に改定した。

5 災害救護・救援活動及び訓練

令和4年6月19日能登地方珠洲地震、8月3日からの大雨による被害において、防災ボランティアや各奉仕団が活動し、その情報収集にあたったほか、各防災関係機関合同の防災訓練等への参加、救護班要員に対する研修を行なった。

(1) 災害救護・救援活動

令和4年6月19日に能登地方で震度6弱の地震が発生し、石川県支部では第一次救護体制をとり、被害状況や救援物資・医療救護のニーズの有無について情報収集を行った。

また、令和4年8月3日からの大雨の影響により、8月4日小松市・白山市に警戒レベル5「緊急安全確保」が発令され、石川県支部では第一次救護体制をとり、情報収集を行った。8月5日赤十字防災ボランティアリーダー1名が小松市社会福祉協議会ボランティアセンター運営に参加。その後、ボランティアセンターが閉鎖される10月までセンターの運営等に従事した。



能登地方珠洲地震発災直後の情報収集



小松市ボランティアセンターでの活動

(2) 防災訓練等への参加

ア 能登空港消火救難訓練

令和4年7月21日(木)、能登空港にて実施された標記訓練に、支部職員1名が参加し、航空機火災における救護訓練を実施した。

イ 石川県原子力防災対策通信連絡演習

毎月第2水曜日に、北陸電力(株)志賀原子力発電所を発信元とし、次のルートで通報を伝達する「異常事態発生通報訓練」に参加し、医療救護班の初動体制の確保に備えた。

北陸電力(株)志賀原子力発電所 → 県危機対策課 → 県医療対策課 → 日赤県支部

ウ 石川県防災総合訓練

令和4年9月25日(日)川北町一円において実施された標記訓練に金沢赤十字病院DMAT1班、赤十字防災ボランティア4名が参加し、医療救護訓練とボランティアセンター運営訓練を実施した。

エ 石川県石油コンビナート等防災訓練

令和4年10月4日(火)七尾国家石油備蓄基地にて実施された標記訓練に、支部職員2名が参加し、医療救護訓練を実施した。

オ 日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練

令和4年11月3日、諏訪赤十字病院にて開催された標記訓練について、支部職員4名、金沢赤十字病院医療救護班1班、石川県血液センター1名が参加し、大型地震を想定し、災害対策本部運営、避難所アセスメント、救護所での診療等を実施した。

カ 石川県原子力防災訓練

令和4年11月23日(水)県内一円において実施された標記訓練に金沢赤十字病院の放射線技師と事務職2名が参加し、緊急被ばく医療措置訓練を実施した。

キ 大規模救急救助訓練(金沢市消防)

令和4年11月28日(月)、石川県消防学校にて実施された標記訓練に、事務職員1名、金沢赤十字病院医療救護班が参加し、金沢市消防局と連携しNBC災害における医療救護訓練を実施した。

ク 石川県国民保護共同図上訓練

令和5年2月14日、石川県庁において実施された標記訓練に支部事務局職員1名が参加し、武力攻撃や大規模テロ発生時の住民避難等、国民保護事案を想定した図上訓練を実施した。

ケ 石川県支部災害対策本部運営訓練

令和5年3月7日、災害発生時に設置される災害救護実施対策本部の運営方法の確認及び安全管理をテーマに本部業務に従事する要員の資質向上を目的とし訓練を実施した。北陸三県の支部の連携を図るため、支部事務局職員9名、富山県支部事務局職員3名、福井県支部事務局職員1名が参加した。



災害救護の基礎知識の確認



初動対応訓練

(3) 救護員に対する研修

ア 事務職対象「救護員研修」の実施

災害時の救護業務を円滑かつ的確に遂行するため、事務系職員等に対して研修(全7回)を実施し、新たに4名を救護員として登録した。

イ 本社・愛知県支部共同主催「全国赤十字救護班研修」への参加

令和5年2月11日(土)～12日(日)、愛知医療センター名古屋第2病院で開催された標記研修に、赤十字救護班としての災害対応力能力の強化を目的とし、支部職員2名、金沢赤十字病院医療救護班1班が参加した。

(4) 防災教育事業

ア 赤十字防災セミナーの開催

令和4年11月29日(火)、戸板公民館において、戸板校下奉仕団員、日本光電金沢営業所職員、ツエーゲン金沢の選手、石川日産自動車販売職員を対象に標記研修を開催した。地域住民と同校下の企業と一緒にDIGを実施し、災害時の地域の課題や防災対策を検討する訓練を実施した。

6 救 援 物 資

地区・分区における救援物資の令和3年度中における被災者(火災等含む。)に対する配布実績及び令和3年度末における保有数は次のとおりである。

地区分区	配布数			保有数			地区分区	配布数			保有数		
	毛布	緊急セット	タオルケット	毛布	緊急セット	タオルケット		毛布	緊急セット	タオルケット	毛布	緊急セット	タオルケット
七尾市	枚 2	セット 1	枚	枚 92	セット 22	枚 0	津幡町	枚	セット	枚	枚 14	セット 5	枚 0
小松市	3	2		42	27	0	内灘町				33	12	0
輪島市	2	1		58	17	10	志賀町	4	3		34	11	1
珠洲市	2	1		34	14	0	宝達志水町				55	12	0
加賀市	2	1		90	26	52	中能登町	14	4		31	14	0
羽咋市	5	6		32	11	4	穴水町				30	7	0
かほく市				81	12	0	能登町	2	1		44	13	0
白山市	47	12	6	252	40	52	金沢市	15	2		19	8	0
能美市				44	9	0	計	48	35	6	1041	284	119
川北町				26	12	0	支部	/	/	/	520	358	849
野々市市				30	12	0	総計	48	35	6	1561	642	968



7 その他救護活動

県、市町等からの依頼により、各種イベント等の会場へ奉仕団員等を派遣し、事故の防止と救護活動を実施した。

行事名	期日	派遣延数
全日本競歩輪島大会	4月13日（土）～14日（日）	6名
石川県障害者スポーツ大会	5月21日（土）22日（日）28日（土）29日（日）	7名
かなざわ百万石まつり	6月4日（土）	96名
石川県戦没者慰霊式	7月22日（金）	2名
野々市じょんからの里 マラソン大会	10月16日（日）	2名
金沢マラソン	10月30日（日）	77名
金沢ハーフマラソン	12月4日（日）	7名
計		197名

8 看護師養成

金沢赤十字病院における医療救護班要員の中核となる看護師を確保するとともに、医療施設要員の充足を図るため、日本赤十字豊田看護大学生3人、石川県立看護大学生1人、金城大学(看護学部)生4人、合わせて8人に対し奨学金を支給した。

大学別学生数

大学名 \ 学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
日本赤十字豊田看護大学	— 人	— 人	1 人	2 人	3 人
石川県立看護大学	—	—	—	1	1
金城大学(看護学部)	2	2	—	—	4
合 計					8

9 救急法・健康生活支援講習等の普及

新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、人と人が接する実技を含む講習会は開催できない中、講義のみの講習や、受講者の実技を代表者のみとするなど、感染対策には十分な配慮を行いできる限りの対策を講じて講習会を開催した。

(1) 講習会の開催状況(総括)

		令和4年度			令和3年度			前年度比
		支部主催	その他	計	支部主催	その他	計	
救 急 法	基 礎	13 回	31 回	44 回	8 回	13 回	21 回	209.5 %
	養 成	8	8	16	1	6	7	
	短 期	0	318	318	0	223	223	142.6
	オンライン	0	57	57	19	48	67	
健康生活支援講習	養 成	0	0	0	0	0	0	
	短 期	0	4	4	1	1	2	200.0
幼 児 安 全 法	養 成	1	0	1	0	2	2	
	短 期	2	52	54	3	37	40	135.0
	オンライン	6	0	6	9	0	9	
水 上 安 全 法	養 成	0	0	0	0	0	0	
	短 期	0	2	2	0	2	2	100.0
雪 上 安 全 法	養 成	0	0	0	0	0	0	
	短 期	0	4	4	0	4	4	
合 計	基 礎	13	31	44	8	13	21	209.5
	養 成	9	8	17	1	8	9	
	短 期	2	380	382	4	267	271	141.0
	オンライン	6	57	63	28	48	76	
総 計		30	476	506	41	336	377	134.2



救急法講習



健康生活支援講習

(2) 養成講習会等の開催状況

【救 急 法】

救急法基礎講習(4時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	4月24日	18人	18人
〃	5月8日	12	12
〃	6月5日	16	16
〃	7月2日	21	21
〃	8月11日	15	15
〃	11月6日	10	10
〃	12月3日	16	16
〃	1月14日	11	11
〃	3月4日	12	12
石川県警察学校	6月1日	65	65
金沢学院大学附属高等学校	4月8日～6月17日	117	117
金沢福祉専門学校	10月6日～10月18日	27	27
第一電機工業協力会	9月7日	14	14
〃	9月10日	16	16
〃	9月17日	18	18
〃	10月1日	18	18
金沢赤十字病院	10月28日	10	10
石川県立田鶴浜高等学校	8月24日	40	40
石川県立田鶴浜高等学校	10月19日	34	34
日本航空大学校	6月7日	26	26
〃	6月14日	25	25
インディーズ	5月21日	7	7
日本通信エンジニアリングサービス株式会社	7月15日	11	11
石川県スポーツトレーナー連絡協議会	3月19日	10	10
計	28回	569	569

救急員養成講習(13時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	5月14日～5月15日	12人	12人
〃	6月11日～6月12日	14	14
〃	7月17日～7月18日	18	18
〃	12月18日～12月19日	9	9
〃	9月24日～9月25日	15	15
〃	12月10日～12月11日	10	10
〃	2月11日～2月12日	11	11
〃	3月11日～3月12日	6	6
日本航空大学	6月8日～6月9日	26	26
〃	6月15日～6月16日	23	22
金沢学院大学附属高等学校	5月6日～12月17日	117	116
金沢福祉専門学校	10月28日～2月2日	27	27
金沢赤十字病院	11月6日～11月8日	9	7
石川県立田鶴浜高等学校	8月25日～8月26日	40	40
石川県立田鶴浜高等学校	10月20日～10月21日	34	34
計	15回	282	278

【幼児安全法】

支援員養成講習(14時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	11月19日、11月23日	8人	8人
計 1回		8	8

講習種別	開催数	受講者数	合格者数
基礎講習	28	569人	569人
養成講習	16	290	286
計	44	859	855

【健康生活支援講習】

支援員養成講習(12時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
		人	人
計 0回		0	0

【水上安全法】

救助員Ⅰ養成(21時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
		人	人
計 0回		0	0

救助員Ⅱ養成(14時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
		人	人
計 0回		0	0

(3) 開催地別講習会開催状況

地区・分区	養成講習						短期講習				
	救急法 (基礎)	救急法	健康生 活支 援講 習	幼 児 安全法	水 上 安全法	雪 上 安全法	救急法	健康生 活支 援講 習	幼 児 安全法	水 上 安全法	雪 上 安全法
金 沢 市	22 ^回	9 ^回	^回	1 ^回	^回	^回	157 ^回	1 ^回	29 ^回	3 ^回	^回
七 尾 市	3	3					9		2		
小 松 市	1	1					11				
輪 島 市	2	2					1				
珠 洲 市							1				
加 賀 市							5		1		
羽 咋 市							1				
か ほ く 市							1		2		
白 山 市							25	2	7	1	4
能 美 市							0				
野々市市							9		5	1	
川 北 町							1				
津 幡 町							2		3	2	
内 灘 町							2				
志 賀 町							7	1			
宝達志水町							2	1			
中能登町							2				
穴 水 町							1		1		
能 登 町							2				
オンライン 講 習							61	1	8		
合 計	28	15	0	1	0	0	300	6	58	7	4

(4) 救急法等指導員在籍状況

単位…人（令和5年3月末現在）

	赤十字職員			ボランティア	合計
	支部職員	病院職員	センター職員		
救急法	5 ^人	12 ^人	2 ^人	110 ^人	129 ^人
健康生活支援講習	1	7	0	14	22
幼児安全法	4	5	1	27	37
水上安全法	1	0	0	11	12
雪上安全法	0	0	0	16	16
計	11	24	3	178	216

(5) 指導員の研修等

指導員の資質向上を図るため、次のとおり研修会を開催するとともに、本社等が主催する研修会にも参加した。

部門別	研修会・講習会		
	支部	本社	ブロック
救急法	3 ^回	1 ^回	0 ^回
水上安全法	1	1	0
健康生活支援講習	1	1	0
幼児安全法	1	1	0
雪上安全法	1	1	0
計	7	5	0

10 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、人道・博愛の精神に基づき、各分野で赤十字活動を行うことを目的として結成されたボランティアの組織である。

赤十字奉仕団には、市町等の地域ごとに結成されている「地域奉仕団」、青年や学生で組織されている「青年奉仕団」、特殊技術を持つ人たちが中心となって組織された「特殊奉仕団」がある。

石川県支部に登録されている赤十字奉仕団は、次のとおりである。

(令和5年3月末現在)

種 別	団 数	団 員 数
地 域 赤 十 字 奉 仕 団	51 団	2,604 人
青 年 赤 十 字 奉 仕 団	3	159
特 殊 赤 十 字 奉 仕 団	6	277
計	60	3,040

[赤十字奉仕団の主な活動内容]

- ① 会員増強に関する奉仕活動
社資募集
- ② 災害救護活動
救援物資の輸送・配分、被災者等への炊き出し、応急救護の支援等
- ③ 青少年赤十字にかかわる活動
研修会の援助
- ④ 献血にかかわる活動
献血推進キャンペーンの実施、献血者の受付及び案内
- ⑤ 救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法、幼児安全法に関する活動
各種講習会での指導
- ⑥ 赤十字病院での活動
身の回りの世話、話し相手、患者の受付と案内、衛生材料づくり
- ⑦ 障害者にかかわる活動
朗読サービス、点訳、手話通訳、通学・通勤の介助送迎
- ⑧ 社会福祉施設での活動
授乳・食事の介助、行事の手伝い、話し相手
- ⑨ 国際支援に関する奉仕活動

(1) 地域赤十字奉仕団の結成状況

(令和5年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
十一屋校下赤十字奉仕団	村田保夫	S49.12.8	26 ^人	6 ^人	32 ^人
馬場赤十字奉仕団	清水満	S50.6.10	31	1	32
大徳赤十字奉仕団	田村政博	S51.7.16	46	26	72
三馬赤十字奉仕団	若松恵美子	S51.7.17	19	33	52
小立野赤十字奉仕団	高野健三	S51.8.17	35	35	70
金石赤十字奉仕団	多崎時安	S51.10.12	44	3	47
輪島市赤十字奉仕団	下善裕	S52.6.13	3	18	21
瓢箪町地区赤十字奉仕団	檜物鋭一	S52.7.20	38	3	41
新豎赤十字奉仕団	田中晋介	S52.11.8	1	6	7
森山赤十字奉仕団	谷村憲治	S53.7.8	3	8	11
富樫赤十字奉仕団	竹村裕樹	S53.8.1	3	20	23
小松市赤十字奉仕団	村西卓	S54.6.19	1	375	376
安原地区赤十字奉仕団	谷口一也	S54.7.19	1	11	12
中村町校下赤十字奉仕団	増本志郎	S55.3.9	31	0	31
戸板赤十字奉仕団	吉田和夫	S55.9.1	35	40	75
野町赤十字奉仕団	宮本哲一	S55.10.16	38	2	40
鞍月赤十字奉仕団	田原康夫	S55.11.17	24	8	32
押野赤十字奉仕団	竹田良雄	S56.5.30	16	28	44
新神田校下赤十字奉仕団	山岸正光	S57.7.10	3	0	3
長坂台校下赤十字奉仕団	土倉克己	S58.7.18	31	8	39
栗崎校下赤十字奉仕団	西澤寛一	S58.9.9	15	23	38
額校下赤十字奉仕団	吉本外明	S59.10.18	4	25	29
西南部校下赤十字奉仕団	中川俊一	S59.11.13	16	21	37
三和校下赤十字奉仕団	橋本律子	S60.3.23	0	44	44
七尾市赤十字奉仕団	芋塚隆彦	S61.9.29	2	14	16
加賀市赤十字奉仕団	宮崎信子	S62.3.3	0	23	23
西校下赤十字奉仕団	池田恵子	S62.10.28	0	20	20
内灘町赤十字奉仕団	亀田武彦	S63.11.10	2	21	23
米丸校下赤十字奉仕団	山下正美	H1.5.15	32	4	36
米泉校下赤十字奉仕団	東昭男	H2.7.9	12	10	22
松任ふれあい赤十字奉仕団	谷健一	H5.9.2	8	53	61
白山市美川まつぼっくり赤十字奉仕団	新千鶴子	H5.10.8	0	64	64
四十万校下赤十字奉仕団	大学正治	H6.6.20	14	19	33
崎浦地区赤十字奉仕団	野村真理子	H6.6.27	45	3	48
扇台校下赤十字奉仕団	渡辺俊晃	H6.11.27	9	23	32
金沢川北赤十字奉仕団	木谷博一	H8.7.6	14	20	34
志賀町赤十字奉仕団	山本洋子	H8.8.20	3	150	153
能美市赤十字奉仕団	田中策次郎	H9.5.24	4	15	19
津幡町赤十字奉仕団	小林良樹	H11.8.20	8	21	29
小坂校下赤十字奉仕団	西川義博	H13.7.22	50	16	66
弥生校下赤十字奉仕団	石田善松	H14.4.27	7	17	24
宝達志水町赤十字奉仕団	柴田捷	H15.3.17	28	85	113
かほく市赤十字奉仕団	北村邦子	H16.5.28	10	266	276
菊川赤十字奉仕団	寺本良之	H16.7.24	13	23	36
能登町赤十字奉仕団	的場清一	H17.5.24	3	91	94
白山ろく赤十字奉仕団	河野泰治	H18.4.17	3	24	27
鶴来ふれあい赤十字奉仕団	金丸和弘	H18.4.24	3	12	15
穴水町赤十字奉仕団	大島秀文	H21.11.5	11	11	22
珠洲市赤十字奉仕団	松原了啓	H21.12.11	4	23	27
羽咋市赤十字奉仕団	柳澤豊志	H22.8.26	47	19	66
夕日寺校下赤十字奉仕団	中川一成	R1.11.2	16	1	17
計	51団		812	1792	2604

(2) 青年赤十字奉仕団の結成状況

(令和5年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
石川県青年赤十字奉仕団	山田 彩千乃	S38. 4. 1	13人	20人	33人
金沢星稜大学学生赤十字奉仕団	谷内 さやか	H11. 4. 13	12	40	52
北陸大学学生赤十字奉仕団	大坪 慎太郎	H30. 4. 13	19	55	74
計	3団		44	115	159

(3) 特殊赤十字奉仕団の結成状況

(令和5年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
石川県赤十字安全法奉仕団	村中 洋	S36. 8. 26	45人	63人	108人
石川県無線赤十字奉仕団	北崎 義夫	S42. 3. 20	40	3	43
石川県赤十字雪上救護奉仕団	永井 敏昌	S53. 12. 2	10	2	12
石川県赤十字救護奉仕団	荒木 覚	S59. 6. 28	15	3	18
青少年赤十字賛助奉仕団	平田 和伸	H15. 5. 2	10	8	18
石川県柔道整復師会赤十字奉仕団	嶋谷 清	H22. 4. 25	77	1	78
計	6団		197	80	277

(4) 赤十字奉仕団石川県支部委員会の開催

ア 総会 令和4年4月20日(水) 石川県赤十字血液センター 出席者 36名

イ 役員会

第1回 令和4年4月20日(水) 石川県赤十字血液センター

第2回 令和4年7月20日(水) 日赤石川県支部

ウ 機関紙発行

「赤十字奉仕団だより」 令和4年9月30日 第43号発刊

令和5年3月31日 第44号発刊

(5) 赤十字ボランティア研修会の開催

ア 基礎研修会 令和4年9月11日(日) 石川県赤十字血液センター 参加者 30名

イ リーダーシップ研修会

令和4年11月13日(日) 石川県赤十字血液センター 参加者 12名

(6) 赤十字奉仕団による共働作業の活動

ア 「赤十字のつどい」の開催

「ウクライナ人道危機で苦しむ人々を救おう！」をテーマに各地区奉仕団が共同でチャリティーバザーや街頭募金を実施した。

・加賀地区 街頭募金

令和4年5月28日(土) Aコープ蝶屋町店

令和4年5月29日(日) 道の駅小松木場潟、イオンモール白山

・金沢地区 チャリティーバザー

令和4年5月29日(日) アルプラザ金沢店

・能登地区 チャリティーバザー

令和4年10月16日(日) 輪島市文化会館

バザー収益金及び街頭募金で集まった579,777円が日本赤十字社石川県支部へ寄託され、ウクライナ人道危機救援金として活用した。

イ 肢体不自由児水泳教室に対する協力

石川県肢体不自由児協会が実施した身体障害児水泳療育訓練において、赤十字安全法奉仕団の団員が指導にあたった。

ウ 金沢百万石まつりに対する協力

百万石行列において、特殊奉仕団4団(安全法、無線、青少年賛助、柔道整復師会)や、青年奉仕団(青年、金沢星稜大学、北陸大学)のほか、青少年赤十字加盟高等学校6校(泉丘、翠星、辰巳丘、伏見、北稜、羽咋)の合計95名が協力し、観客や参加者に対する救護や、迷子の捜索活動にあたった。

エ 金沢マラソン2022に対する協力

金沢マラソンにおいて、特殊奉仕団1団(安全法)や、青年奉仕団3団(青年、星稜大学、北陸大学)、4奉仕団76名がAED隊として救護活動にあたった。



ボランティア基礎研修



金沢マラソン2022

(7) 奉仕団員による災害復旧支援活動

令和4年8月3日からの大雨の復旧支援のため、能美市奉仕団が災害ボランティアセンターの運営補助や泥の撤去、災害廃棄物運搬等の復旧支援活動を行った。

また、青年奉仕団(青年、金沢星稜大学、北陸大学)も災害ボランティアとして、小松市にて復旧支援活動を行った。



災害ボランティアセンターの運営補助



水に浸かった畳を運搬する青年奉仕団員

(8) 『ACTION！無病息災プロジェクト』

支部では令和4年度から、地域住民の健康増進を目的とした事業『ACTION！無病息災プロジェクト』を実施している。令和4年4月からはかほく市奉仕団をモデル奉仕団として、遊休農地を活用した野菜づくりや、ノルディック・ウォーキング教室の開催などに取り組んでいる。また、小松市奉仕団においても、民間企業と連携したラフターヨガ教室やおいしく減塩教室『スマ塩』を実施した。



野菜づくり



ノルディック・ウォーキング教室

11 青少年赤十字

青少年赤十字活動は、児童・生徒が赤十字の精神である人道・博愛の心を理解体得し、世界の平和と人類の福祉向上に貢献出来るよう、日常の学校生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成することを目的とした活動である。

「健康・安全」「奉仕」「交際親善・理解」の3つを実践目標に掲げ、メンバー自身が「気づき」「考え」「実行する」という取り組みを行っている。

(1) 青少年赤十字の加盟校(園)の状況

区 分	令和4年度(園・校)	令和3年度(園・校)	増減(園・校)
幼稚園・保育園・こども園	2	2	0
小 学 校	98	96	2
中 学 校	41	40	1
高等学校・特別支援学校	33	32	1
計	174	170	4

幼稚園・保育園・こども園			小 学 校			中 学 校			高等学校・特別支援学校		
番号	市町名	園 名	番号	市町名	学 校 名	番号	市町名	学 校 名	番号	市町名	学 校 名
1	七尾市	七尾みなどこども園	1	加賀市	片山津	1	小松市	丸松	1	小松市	小松立
2	〃	東みなどこども園	2	〃	湖北	2	〃	松陽	2	〃	小松峰
			3	〃	作見	3	〃	松国	3	〃	小松明
			4	小松市	雅安	4	白山市	松松	4	〃	小松大
			5	〃	安宅	5	〃	松北	5	能美市	寺井
			6	〃	犬丸	6	〃	松光	6	白山市	松翠
			7	〃	荒屋	7	〃	松笠	7	〃	松翠
			8	〃	苗代	8	〃	松北	8	金沢市	金沢錦
			9	〃	蓮代	9	〃	松鶴	9	〃	金沢泉
			10	〃	今寺	10	〃	松鳥	10	〃	金沢二
			11	〃	串江	11	〃	松白	11	〃	金沢伏
			12	〃	日符	12	金沢市	南城	12	〃	金沢辰
			13	〃	粟津	13	〃	兼六	13	〃	金沢巴
			14	〃	津場	14	〃	和鳴	14	〃	金沢業
			15	〃	木野	15	〃	高岡	15	〃	金沢北
			16	〃	矢野	16	〃	長岡	16	〃	金沢向
			17	〃	月津	17	〃	浅野	17	〃	金沢院
			18	〃	那海	18	〃	芝原	18	〃	星学
			19	〃	中	19	〃	西原	19	〃	星学
			20	〃	松東	20	〃	犀南	20	〃	いしかわ特別支援
			21	〃	能美	21	〃	犀南	21	〃	医王特別支援
			22	〃	陵美	22	〃	犀南	21	〃	明和特別支援
			23	白山市	松任	23	〃	高尾	22	津幡町	津幡
			24	〃	旭丘	24	〃	緑台	23	内灘町	内灘
			25	〃	南	25	〃	北	24	羽咋市	羽咋
			26	〃	湊	26	〃	大	25	七尾市	七尾
			27	〃	朝日	27	〃	額	26	〃	七尾東
			28	〃	光明	28	〃	清	27	〃	七尾雲
			29	〃	広陽	29	かほく市	宇ノ	28	〃	田鶴
			30	〃	鳥越	30	〃	河	29	〃	田鶴
			31	〃	松嶺	31	津幡町	津	30	輪島市	輪島
			32	〃	白嶺	32	羽咋市	津	31	能登町	能登
			33	野々市市	御富	33	羽咋市	羽	32	珠洲市	能登
			34	〃	富野	34	宝達志水町	宝	33	穴水町	飯田
			35	〃	館陽	35	志賀町	富			水
			36	金沢市	泉野	36	七尾市	七			
			37	〃	一	37	〃	七			
			38	〃	立	38	〃	七			
			39	〃	野	39	〃	能			
			40	〃	中央	40	中能登町	中			
			41	〃	芳分	41	能登町	能			
			42	〃	田						
			43	〃	長明						
			44	〃	小						
			45	〃	千						
			46	〃	浅						
			47	〃	野						
			48	〃	大						

49	〃	大	野	德			
50	〃	浅	野	町			
51	〃	戸		板			
52	〃	押		野			
53	〃	三		馬			
54	〃	富		櫛			
55	〃		額				
56	〃	田		上			
57	〃	花		園			
58	〃	不	動	寺			
59	〃	三		谷			
60	〃	湯		浦			
61	〃	南	小	野			
62	〃	木	立	野			
63	〃	三		和			
64	〃	西	南	部			
65	〃	米		泉			
66	〃	四		万			
67	〃		十				
68	〃		西				
69	〃	伏	泉	見			
70	津	英		台			
71	幡	萩	野	田			
72	内	向	粟	崎			
73	灘	鶴	ヶ	丘			
74	宝	押	水	第			
75	達	宝		一			
76	志	相		達			
77	水	植		見			
78	町	志		川			
79	羽	羽	ノ	昨			
80	〃	粟		保			
81	〃	瑞		穂			
82	〃	西	北	台			
83	〃	邑		知			
84	〃	余		喜			
85	志	志		賀			
86	中	鹿		西			
87	七	小	丸	山			
88	〃	山		王			
89	〃	天	神	山			
90	〃	朝		日			
91	〃	東		湊			
92	〃	石		崎			
93	〃	和		倉			
94	〃	田	鶴	濱			
95	〃	中		島			
96	〃	能	登	島			
97	輪	河	原	田			
98	〃	門	前	西			
計	2	計	98	計	41	計	33
	園		校		校		校

(2) 指導体制の充実・強化

ア 会議等

- (ア) 青少年赤十字指導者協議会総会・研修会
令和4年5月26日(木) 日赤石川県支部(web)
現地・zoom配信受講 15人参加
you tube動画視聴 38人参加
- (イ) 青少年赤十字指導者協議会役員研修会
令和5年2月21日(火) 日赤石川県支部 7人参加
- (ウ) 青少年赤十字指導者研修会
令和5年2月21日(火) 日赤石川県支部(web)
現地・zoom配信受講 25人参加
you tube動画視聴 38人参加
- (エ) 第3ブロック青少年赤十字指導者協議会会長及び支部担当者研究会
令和4年6月17日(金) 日赤石川県支部(web) 2人参加
- (オ) 全国青少年赤十字指導者協議会総会
令和4年6月29日(水) 日赤石川県支部(web) 1人参加

(3) メンバーの活動状況

ア 会議等

(ア) 県高校JRC協議会

第1回 令和4年4月16日(土) 松任高等学校 15校46人参加

(イ) 第43回石川県高等学校JRC大会

令和4年6月3日(金) いしかわ子ども交流センター 13校109人参加

(4) 国際理解・親善活動

ア 青少年赤十字創設100周年記念令和4年度国際交流事業

令和4年11月5日(土)6日(日) 金沢二水高等学校 1校4人参加

イ 「愛と平和のワンコイン募金」街頭募金活動

令和4年12月4日(日) JR金沢駅 1校23人参加

(5) ボランティア活動

1円玉募金

児童館や福祉施設の訪問

清掃活動 等

(6) 普及活動

ア 高文連JRC部への活動助成

イ 活動紹介機関紙「石川青少年赤十字ニュース」の配布(県内全学校〈小・中・高・特別支援学校〉)

(7) 指導用教材資料の貸し出し

防災教育教材、紙芝居、ネパールの水がめ、地雷模型、地雷関係パネル、松葉杖、盲人用杖、アイマスク、義足など



国際交流事業



「愛と平和のワンコイン募金」街頭募金活動

12 国 際 活 動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と緊密な連携のもとに、現在も世界の各地で起きている武力紛争や地震等の自然災害による犠牲者等の救援のため、物資や資金の援助及び開発協力要員の派遣を行っている。

石川県支部では、日本赤十字社の活動を支援するとともに、第3ブロック支部共同事業として、「アジア・大洋州給水・衛生キット支援(H22年～)」、「シリア難民支援事業(H28～)」及び「東アフリカ地域3カ国保健強化事業(H30～)」に対して援助を行った。

また、被災者等に対する義援金の受付を行うほか、赤十字奉仕団員による「NHK海外たすけあい」街頭募金活動を実施し、本社へ送金した。

さらに、令和3年10月に長崎県から高校生平和大使を招いて七尾市の能登演劇堂で開催された「愛と平和の祭典2021in NANA O」をきっかけとして始めた、愛と平和のワンコイン募金を実施し、国際支援事業や災害救護活動、青少年赤十字活動等に活用した。

加えて、「ウクライナ人道危機救援金」や「トルコシリア地震救援金」募金など県民から寄託された救援金を本社へ送金した。

日赤第3ブロック支部 共同事業内容

1. シリア難民支援事業

長引く内戦の影響による難民が増加の一途を辿る同国において、現在行っている医療要因は調整要員の派遣による支援をより一層強化する。

2. 東アフリカ地域3カ国(ブルンジ・他2カ国)保健強化事業

自然災害や紛争、テロが頻発する上、保健指標の低さや貧困率の高さ等、さまざまな課題を抱えた同地域において、住民主体で地域保健を強化する活動を支援する。

3. アジア・大洋州給水・衛生キット支援

洪水やサイクロンなどの災害が増加している同国において、迅速に給水・衛生活動が展開できるよう、国際赤十字・赤新月社連盟が開発した「給水・衛生キット」を配備し、スタッフの研修を実施する。

日赤第3ブロック支部 共同事業実績額

年度	支援内容	3ブロック支援額 (円)	当支部負担額 (円)	年度	支援内容	3ブロック支援額 (円)	当支部負担額 (円)
H29	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R 2	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000
	東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	300,000
	アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000		アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,000,000
H30	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R 3	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000
	東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	300,000
	アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000		アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,000,000
R 1	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R 4	シリア難民支援事業	8,000,000	440,000
	東アフリカ地域2カ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	330,000
	アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000		アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	330,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,100,000

13 医 療 事 業

令和4年度の医療界は、厳しい内容となる診療報酬改定のほか、今なお続く新型コロナウイルス感染拡大による患者減少への対応など、多くの課題に直面した1年となった。

当院においても診療報酬改定への対応のほか、次世代内視鏡システムの整備や手術室の体制強化などにより、入院患者数や診療単価の増加を目指した結果、手術や、内視鏡、健診件数等に加え、診療単価についても、前年度実績から増加させることができた。

しかしながら、当院においても新型コロナウイルス感染拡大による入退院の制限や、手術、救急患者の受入れ停止等の措置を行った時期もあり、入院患者数については増加の目標を達成することができなかった。

経営的には、これまで同様、新型コロナウイルス感染症患者の入院受入れや、発熱患者等の専門外来設置のほか、地域住民等へのワクチン接種などを実施することで、国や県等から補助金の交付を受け、患者減少に伴う収入減を補填しているが、光熱費をはじめ、様々な材料費の高騰により支出が大きく増加したことで赤字決算となった。しかし、今年度決算については、会計処理上、下半期分の補助金収入が反映されておらず、この補助金を加えると実質黒字決算となる見込みである。

この様な状況の中、新型コロナウイルス感染症については、令和5年5月8日をもって、感染症法における分類が2類から5類に引き下げられ、これに伴い、これまで収入減の補填となってきた補助金の減額が決定しており、今秋以降は廃止となる見通しであることから、入院患者数や診療単価の増加に向けた独自の取り組みが喫緊の課題となっており、当院では、今回の診療報酬改定で新たに設けられた紹介患者への外来を基本とする「紹介受診重点医療機関」の指定を目指している。

当院においては、これまで同様、地域の拠点病院として地域医療や福祉との連携に注力し、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟の更なる有効活用を図りながら、全職員が一丸となり経営目標の達成に向け努力を続けていきたい。

令和4年度の主な事業

1. 新型コロナウイルス感染症への対応
 - (1) 地域住民等へのワクチン接種(延べ6,937人接種)
 - (2) 万全な感染防止対策を行ったうえで実施する新型コロナ感染症患者の入院受入れを実施(専用病床25床設置)
2. 診療機能の向上及び維持
 - (1) 高精度マンモグラフィーへの更新
 - (2) 離床センサー内蔵ベッド40台の導入
3. 医療機器整備
透析装置、3次元眼底像撮影装置、自動遺伝子解析装置、他14点

令和4年度における患者数等は次のとおりである。

(1) 患者数

科別	年度	令和4年度		令和3年度		対前年度増減	
		総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均
入院		62,563人	171.4人	63,338人	173.5人	△ 775人	△ 2.1人
(新入院患者数)		3,590	9.8	3,967	10.9	△ 377	△ 1.1
外来		116,321	478.7	117,612	486.0	△ 1,291	△ 7.3

(2) 診療科別患者数

(入院)

科別	年度	令和4年度		令和3年度		対前年度増減	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科		31,216人	85.5人	30,831人	84.5人	385人	1.0人
外科		5,459	15.0	5,440	14.9	19	0.1
整形外科		8,840	24.2	10,025	27.5	△ 1,185	△ 3.3
脳外科		2,373	6.5	1,749	4.8	624	1.7
眼科		508	1.4	403	1.1	105	0.3
産婦人科		209	0.6	177	0.5	32	0.1
小児科		146	0.4	215	0.6	△ 69	△ 0.2
皮膚科		862	2.4	811	2.2	51	0.2
放射線科		—	—	—	—	—	—
麻酔科		—	—	—	—	—	—
リハビリ科		12,323	33.8	12,957	35.5	△ 634	△ 1.7
泌尿器科		627	1.7	730	2.0	△ 103	△ 0.3
計		62,563	171.4	63,338	173.5	△ 775	△ 2.1

(外来)

科別	年度	令和4年度		令和3年度		対前年度増減	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科		49,979人	205.7人	50,734人	209.6人	△ 755人	△ 3.9人
外科		8,672	35.7	8,160	33.7	512	2.0
整形外科		7,130	36.6	8,063	41.8	△ 933	△ 5.2
脳外科		2,005	8.3	2,285	9.4	△ 280	△ 1.1
眼科		5,328	21.9	5,400	22.3	△ 72	△ 0.4
産婦人科		4,734	19.5	4,811	19.9	△ 77	△ 0.4
小児科		2,841	11.7	2,811	11.6	30	0.1
皮膚科		5,330	21.9	5,926	24.5	△ 596	△ 2.6
放射線科		139	0.6	150	0.6	△ 11	0.0
麻酔科		408	1.7	414	1.7	△ 6	0.0
リハビリ科		22,416	92.2	20,913	86.4	1,503	5.8
泌尿器科		7,339	30.2	7,945	32.8	△ 606	△ 2.6
計		116,321	478.7	117,612	486.0	△ 1,291	△ 7.3

(3) 診療単価等

科別	年度		令和4年度		令和3年度		対前年度増減	
			金額	率	金額	率	金額	率
患者1人1日 当たりの収入		入院	47,944円		47,059円		885円	1.9%
		外来	13,863円		13,581円		282円	2.1%
病床利用率			70.5%		71.4%	—	—	
平均在院日数			16.5日		14.9日	—	—	
再掲(急性期病床)			12.2日		11.7日	—	—	

14 医療・保健等の社会事業

金沢赤十字病院においては、病院経営の重要な部分として、医療・保健衛生等の社会事業を積極的に展開しているが、令和4年度における活動状況は、次表のとおりである。

活動の種別	延対象者数	活動の種別	延対象者数
糖尿病教室	91 ^人	すこやか検診	1,225 ^人
栄養指導	1,700	一般健診	3,136
健康講座	0	成人病健診	5,289
訪問看護	2,881	日帰りドック	737
訪問リハビリ	1,283	宿泊ドック	22

15 血液事業

令和4年度の血液事業の運営にあたっては、令和2年から引き続き新型コロナウイルスへの対応が続いたが、国、県、市町、医療関係及び献血推進団体等の各関係団体の協力により、前年度並みの献血者を確保することができた。感染対策を徹底しつつ献血者の確保を行うとともに、安全な輸血用血液製剤の安定供給を行い、効率的な事業運営に努めるため、次の事項を重点として取り組んだ。

(1) 安全な血液製剤の安定供給

① 需給管理の充実

医療機関との連携や情報共有の充実に努め、血液製剤の需給予測の精度向上を図るとともに、需要に応じた適切な採血を推進した。

また、医療現場のニーズに対応できる質の高い需給管理を行うため、職員の情報・意識共有の仕組みづくりや教育を推進した。

② 安全性の確保

血液製剤を保管する冷凍・冷蔵設備や運搬車両等設備機器の適切かつ確実な管理運用に努め、故障・緊急時の対応や安全運行等に関する教育訓練を徹底し、常に安全で高品質な血液製剤を供給した。

③ 血液製剤の適正使用の推進

石川県合同輸血療法委員会の活動や石川センターでの研修を通じて、医療機関への情報提供や技術指導の充実に努め、適正使用の一層の推進を図った。

④ 災害時における体制の充実

東海北陸ブロック地域内において高い確率で発生が危惧されている東海・東南海地震等の大震災に対し、危機管理ガイドライン等に基づき、ブロック血液センター及び管内地域センターと連携し、合同で災害対応訓練を実施した。また、石川県防災総合訓練に日本赤十字社石川県支部、金沢赤十字病院等と連携のうえ参加し緊急時の対応に備えた。

(2) 献血者の安定的確保

① 普及啓発活動

- ア 献血の必要性を広く周知し、献血協力のきっかけとなるよう、様々な年代層をターゲットとした各種献血キャンペーンを展開した。
- イ 若年層にアピールし、血液事業に共感と興味を持ってもらえる情報誌等印刷物の発行に努めた。
- ウ ホームページの一層の活用を図り、求められる情報がリアルタイムでスムーズかつ正確に閲覧できるよう、管理の徹底や内容の充実に努めた。

② 若年層献血者確保対策

- ア 県や教育委員会の協力のもと、主に高校生や大学生を対象として、献血の基礎知識を伝え献血への協力意欲を醸成するため、献血セミナーを年間10回開催した。
- イ 医療や福祉を学ぶ高校、看護学校、専門学校の学生を対象に、授業の中で献血の必要性や血液事業への理解、研修等への参加を呼び掛けた。
- ウ 移動採血の渉外活動において、事業主や献血担当者に対し若年層献血者確保の重要性を丁寧に説明し、協力を求め、若年層従業員への呼びかけ拡大、強化に努めた。
- エ 若年層のニーズに沿った献血記念品の選定や、若年層限定献血キャンペーンなど、若年層が献血に関心を寄せるきっかけとなるような企画や広報を積極的に展開した。
- オ 石川県学生献血推進委員会と協働することにより、同委員会の一層の活性化を図り、取り組みの一つである同世代への献血推進活動をサポートした。
- カ 大学・短期大学等の教職員と学生献血推進ボランティア、石川県赤十字血液センター職員で構成する石川県学生献血推進連絡会による学生献血推進ボランティアの活動への支援を強化した。
- キ ブロック血液センターや管内地域センターと情報・意見交換を行い、先進的な事例を検証して取り入れ、効果的な若年層献血者確保対策を実践した。

③ 献血登録者の拡充

- ア 継続的な献血協力を推進するために、メール及びLINEで献血者にこまめな依頼要請や情報提供を行うとともに、「ラブラッド」会員(アプリ・Web)新規会員の確保に努め、年度末会員数が20,500人を超えた。
- イ 血小板製剤の県内自給を目指し、医療機関の要望に確実に応えられるよう、血小板成分献血の要請応諾者拡充に努めた。また、HLA型の登録を推進し、高品質な血小板製剤の供給に努めた。
- ウ 献血ルームをはじめ、移動採血でも約92%の会場で献血の事前予約枠を設け、献血者の利便性を向上するとともに安定的かつ継続的な血液の確保に努めた。

④ 献血者の安全確保

- ア 献血時におけるインフォームドコンセントを徹底し、献血者の健康状態に十分配慮した採血に努めた。
- イ VVR等採血副作用の予防に細心の注意を払うとともに、副作用が発生した場合の措置について教育訓練を徹底した。

ウ 採血課職員の日本輸血・細胞治療学会が認定する「アフエレーシスナース（成分採血認定看護師）」の認定取得に積極的に取り組んだ

⑤ 献血者への健康管理サービス

低ヘモグロビン等により献血できなかつた献血申込者への栄養士による健康相談やB型肝炎及びC型肝炎ウイルス検査陽性献血者への健康相談を実施し、献血不適格者への健康指導に努めた。

(3) 効率的な事業運営

① 400mL献血の推進

医療機関のニーズに応じた供給を行うため、全血献血は400mLを基本とし、相対的に使用頻度が少ない200mL献血を抑制したところ、全血献血に占める400mL献血の割合が約95%となった。

② 移動採血1稼働あたりの採血効率の向上

献血実施企業団体やライオンズクラブ等の献血協力団体との連携を強化し、1稼働あたりの採血数を増やし、必要な血液量を確保するなど採血効率の向上に努めた。

③ 献血ルームの事業改善

ア 献血ルームの全血献血の向上に取り組むとともに、血液製剤の需給状況を踏まえた適切な成分献血者確保に努めた。

イ 献血推進・予約システム(CMS)を活用した予約献血を推進し、献血者の利便性向上に努めた

ウ 血小板製剤の献血後3日運用を促進するため、曜日別の適切な採血数を設定し、計画に沿った採血数の確保に努めた。

④ 成分献血の効率化

ア 血小板成分採血において、分割血小板採取の比率向上を図り、採取率52.3%を確保した。

イ 循環血液量に応じた最大限の血漿確保を推進し、血漿成分献血における1本あたりの平均採取血漿量は570.4mL、血小板(血小板+血漿)採血における1本あたりの原料血漿採取量は、分割製造用207.7mL、非分割製造用312.6mLを確保した。

⑤ 供給体制の効率化

臨時配送便を削減するための医療機関との協議を進め、定期便率の向上を図った。

また、輸血用血液製剤の受発注における過誤発生を防止を目的に、インターネットで受発注するWEB発注システムの導入を推進し、現在受発注の8割がWEB発注システムを利用したものとなった。

(4) 持続可能な血液事業(事業の活性化)の推進

① 人材育成・人事交流

職員の日本赤十字社石川県支部及びブロック血液センターとの職員交流及び

統一的な研修体制の整備に努め、職員の能力向上を促進した。

② 研修教育機能の充実

ブロックセンター石川製造所と連携し、血液事業全体を研修できる血液センターとして、研修医の受け入れ及び衛生看護科の学生については研修を実施することにより、血液事業の新しい担い手や安全な輸血医療の担い手を引き続き確保・拡充した。

③ 経営改善の取組と事業運営の活性化

血液事業特別会計の継続的な財政運営を図るため、職員一丸となって「カイゼン」活動に積極的に取り組むとともに、事業評価結果に基づき事業の質的向上及び事業の効率化を推進し、事業運営の活性化を図った。

(5) 造血幹細胞事業の推進

石川県や県内ボランティア団体(いしかわ骨髄バンク推進・はとの会)と連携して、骨髄バンク登録の支援に努め、登録者の増加を図った。

(6) 献血・血液製剤供給状況等(令和4年度)

① 市町別献血状況(令和4年度)

市町別	献血目標				献血者数実績				達成率
	200mL	400mL	成分	合計	200mL	400mL	成分	合計	
金沢市	112人	5,515人	—人	5,627人	241人	5,676人	—人	5,917人	105.2%
七尾市	13	570	—	583	24	567	—	591	101.4
小松市	60	2,880	—	2,940	81	2,475	—	2,556	86.9
輪島市	10	540	—	550	41	545	—	586	106.5
珠洲市	5	245	—	250	12	274	—	286	114.4
加賀市	24	950	—	974	21	1,036	—	1,057	108.5
羽咋市	9	360	—	369	7	374	—	381	103.3
かほく市	15	580	—	595	18	591	—	609	102.4
白山市	71	2,545	—	2,616	108	3,464	—	3,572	136.5
能美市	15	610	—	625	23	609	—	632	101.1
野々市市	45	1,250	—	1,295	75	1,077	—	1,152	89.0
川北町	5	200	—	205	1	134	—	135	65.9
津幡町	10	390	—	400	22	510	—	532	133.0
内灘町	3	120	—	123	3	90	—	93	75.6
志賀町	15	570	—	585	24	610	—	634	108.4
宝達志水町	3	55	—	58	4	66	—	70	120.7
中能登町	7	310	—	317	3	232	—	235	74.1
穴水町	4	160	—	164	8	141	—	149	90.9
能登町	4	150	—	154	10	211	—	221	143.5
小計	430	18,000	—	18,430	726	18,682	—	19,408	105.3
くらつき	45	4,000	7,810	11,855	204	4,112	8,157	12,473	105.2
ル・キューブ	335	3,690	7,980	12,005	479	3,922	8,338	12,739	106.1
合計	810	25,690	15,790	42,290	1,409	26,716	16,495	44,620	105.5
令和3年度合計	750	25,150	16,000	41,900	1,344	26,691	16,526	44,561	110.1

② 献血者の内訳(令和4年度)

【種類別・性別】

種類区分	性別	献血者数
200mL	男性	189人
	女性	1,220
	計	1,409
400mL	男性	20,371
	女性	6,345
	計	26,716
成分	男性	11,818
	女性	4,677
	計	16,495
合計		44,620

【年齢別】

年齢区分	献血者数
16～19歳	2,077人
20～29歳	6,138
30～39歳	6,281
40～49歳	11,288
50～59歳	13,474
60～69歳	5,362
合計	44,620

【職業別】

職業区分	献血者数
公務員	6,917人
会社員	25,829
学生	3,984
その他	7,890
合計	44,620

【性別】

区分	男性	女性	合計
献血者数	32,378人	12,242人	44,620人

【献血登録者】 ラブラット会員含む

	A型	O型	B型	AB型	不明	合計
Rh(+)型	24,880 (24)	20,539 (47)	15,057 (20)	6,914 (7)		67,390 (98)
Rh(-)型	271 (2)	273 (5)	200 (2)	95 (0)		839 (9)
合計	25,151 (26)	20,812 (52)	15,257 (22)	7,009 (7)	1,671	69,900 (107)

() 内は、まれ血の再掲

③ 血液製剤供給状況(令和4年度)

令和4年度中の血液製剤供給本数は、200mL献血換算数で132,836本、その内訳は次のとおりである。

製剤名	供給数	供給数							計	構成比	
		1単位	2単位	4単位	5単位	10単位	15単位	20単位			
全血製剤	照射人全血液-LR	0	0	—	—	—	—	—	0	0.0	
	全血製剤計	0	0	—	—	—	—	—	0	0.0	
成分	赤血球液	照射赤血球液-LR	1,207	22,284	—	—	—	—	—	45,775	34.5
		照射洗浄赤血球-LR	0	42	—	—	—	—	—	84	0.1
		照射解凍赤血球-LR	0	0	—	—	—	—	—	0	0.0
		照射合成血-LR	0	0	—	—	—	—	—	0	0.0
		計	1,207	22,326	—	—	—	—	—	45,859	34.6
製剤	血漿製剤	新鮮凍結血漿-LR	269	5,952	361	—	—	—	—	13,617	10.3
		計	269	5,952	361	—	—	—	—	13,617	10.3
剤	血小板製剤	照射濃厚血小板-LR	0	0	—	73	7,081	31	0	71,640	53.9
		照射濃厚血小板HLA-LR	0	0	—	—	130	0	0	1,300	1.0
		照射洗浄血小板-LR	0	0	—	—	42	0	0	420	0.3
		計	0	0	—	73	7,253	31	0	73,360	55.2
血液成分製剤計		1,476	28,278	361	73	7,253	31	0	132,836	100.0	
合計(単位)		1,476	56,556	1,444	365	72,530	465	0	132,836	100.0	
令和3年度(単位)		1,382	56,754	2,020	410	66,640	420	0	127,626		

④ 原料血漿確保量(令和4年度)

原料血漿確保目標量 11,187L 確保量 12,621L
(令和3年度目標量 11,102L)

16 決 算 状 況

(1) 令和4年度一般会計石川県支部歳入歳出決算書

歳 入

科 目		予 算 現 額			決 算 額	収入未済額	予算現額に 比し増減
		当初予算額	補正予算額	計			
社資 収入	一般社資収入	円 146,000,000	円 5,540,000	円 151,540,000	円 153,695,704	円 0	円 2,155,704
	法人社資収入	12,000,000	5,000,000	17,000,000	19,084,035	0	2,084,035
計		158,000,000	10,540,000	168,540,000	172,779,739	0	4,239,739
委託金等収入		0	0	0	0	0	0
補助金及び交付金収入		3,661,000	0	3,661,000	3,290,514	0	△ 370,486
災害義援金預り金収入		0	28,524,000	28,524,000	28,522,692	0	△ 1,308
繰入金収入		0	12,368,000	12,368,000	12,319,046	0	△ 48,954
資産収入		0	0	0	239,200	0	239,200
雑収入		4,854,000	0	4,854,000	4,485,395	0	△ 368,605
前年度繰越金		27,577,000	0	27,577,000	43,158,883	0	15,581,883
合 計		194,092,000	51,432,000	245,524,000	264,795,469	0	19,271,469

歳 出

科 目		予 算 現 額				決 算 額	翌年度 繰越額	不用額
		当初予算額	補正予算額	流用増減額	計			
災害救護事業費		円 15,975,000	円 11,730,000	円 0	円 27,705,000	円 26,153,457	円 0	円 1,551,543
社会活動費		54,453,000	△4,000,000	0	50,453,000	43,994,958	0	6,458,042
国際活動費		1,100,000	3,790,000	0	4,890,000	4,889,752	0	248
指定事業地方振興費		0	3,790,000	0	3,790,000	3,789,752	0	248
地区分区交付金支出		19,968,000	△2,000,000	0	17,968,000	15,484,000	0	2,484,000
社業振興費		24,248,000	△1,000,000	0	23,248,000	20,018,193	0	3,229,807
基盤整備交付金・補助金支出		0	1,750,000	0	1,750,000	1,750,000	0	0
積立金支出		11,796,000	37,372,000	0	49,168,000	48,758,666	0	409,334
総務管理費		34,437,000	0	0	34,437,000	32,004,304	0	2,432,696
資産取得及び資産管理費		5,515,000	0	0	5,515,000	5,431,269	0	83,731
本社送納金支出		23,700,000	0	1,649,000	25,349,000	25,348,498	0	502
予備費		2,900,000	0	△1,649,000	1,251,000	0	0	1,251,000
合 計		194,092,000	51,432,000	0	245,524,000	227,622,849	0	17,901,151

歳入歳出差引額 37,172,620円 翌年度繰越金

(2) 令和4年度医療施設特別会計歳入歳出決算書

金沢赤十字病院

科 目		決 算 額
医 業 収 益	入 院 診 療 収 益	2,999,502,772 円
	室 料 差 額 収 益	78,741,530
	外 来 診 療 収 益	1,612,566,883
	保 健 予 防 活 動 収 益	165,607,219
	受 託 検 査 ・ 施 設 利 用 収 益	0
	そ の 他 の 医 業 収 益	53,023,706
	保 険 等 査 定 減	△ 5,450,240
	小 計	4,903,991,870
医 業 費 用	材 料 費	1,124,137,205
	給 与 費	2,895,966,906
	委 託 費	440,916,665
	設 備 関 係 費	603,178,827
	研 究 研 修 費	8,392,420
	経 費	286,748,593
	小 計	5,359,340,616
医 療 事 業 損 失		△ 455,348,746
医 業 外 収 益		557,324,836
医 業 外 費 用		10,085,876
医 業 外 利 益		547,238,960
医 療 社 会 事 業 収 益		38,532
医 療 奉 仕 費 用		92,691,119
医 療 社 会 事 業 損 失		△ 92,652,587
付 帯 事 業 収 益		26,526,283
付 帯 事 業 費 用		40,403,715
付 帯 事 業 損 失		△ 13,877,432
特 別 利 益		946,652
特 別 損 失		1,351,266
特 別 損 失		△ 404,614
法 人 税 等		0
収 益 的 収 入 合 計		5,488,828,173
収 益 的 支 出 合 計		5,503,872,592
当 期 純 損 失		△ 15,044,419

17 日本赤十字社石川県支部役員名簿

(令和5年4月27日現在)

役職名	氏名	当初就任年月日	選任回数	至任期	備考
支部長	馳 浩	令和 4. 3. 27	1	令和 7. 3. 26	石川県知事
副支部長	村山 卓	令和 4. 3. 15	1	令和 7. 3. 14	石川県市長会長
副支部長	矢田 富郎	令和元. 6. 18	2	令和 7. 6. 17	石川県町長会長
副支部長	袖森 直弘	令和 5. 4. 1	1	令和 8. 3. 31	石川県健康福祉部長
評議員	※荒木 龍平	平成19. 2. 14	6	令和 7. 2. 13	石川県日赤紺綬有功会会長
評議員	※吉田 國男	平成22. 2. 14	5	同上	財団法人石川県社会保険協会会長
評議員	※明石 寛治	令和 4. 2. 14	1	同上	株式会社明石合銅相談役
評議員	※田上 好道	平成26. 2. 14	4	同上	石川県商工会連合会会長
評議員	※能木場由紀子	平成20. 4. 23	6	同上	石川県婦人団体協議会会長
評議員	※寺本 良之	令和 3. 4. 24	2	同上	赤十字奉仕団石川県支部委員会委員長
評議員	前 千代子	令和 4. 4. 1	1	同上	金沢市校下婦人会連絡協議会副会長
評議員	澤飯 英樹	令和 4. 4. 14	1	同上	金沢市消防団連合会会長
評議員	高野 善一	令和元. 12. 3	2	同上	金沢市民生委員児童委員協議会会長
評議員	桶川 秀志	令和 3. 4. 1	2	同上	金沢市社会福祉協議会会長
評議員	林 充男	令和 3. 5. 31	2	同上	金沢市シルバー人材センター理事長
評議員	山田 啓之	令和 4. 6. 22	1	同上	金沢市副市長
評議員	元尾 文二	令和 4. 4. 26	1	同上	金沢市公民館連合会副会長
評議員	中川 一成	令和 2. 4. 1	2	同上	金沢市町会連合会会長
評議員	相川 一郎	令和 5. 4. 1	1	同上	元金沢市副市長
評議員	茶谷 義隆	令和 2. 11. 14	2	同上	七尾市長
評議員	宮橋 勝栄	令和 3. 4. 13	2	同上	小松市長
評議員	村西 卓	令和 2. 4. 28	2	同上	小松市町内会連合会会長
評議員	坂口 茂	令和 4. 3. 19	1	同上	輪島市長
評議員	泉谷 満寿裕	平成18. 6. 12	7	同上	珠洲市長
評議員	宮元 陸	平成25. 10. 30	4	同上	加賀市長
評議員	岸 博一	令和 2. 11. 1	2	同上	羽咋市長
評議員	油野 和一郎	平成16. 4. 12	7	同上	かほく市長
評議員	田村 敏和	令和 5. 4. 23	1	同上	白山市長
評議員	松本 祐紀	令和 5. 4. 27	1	同上	白山市町会連合会会長
評議員	井出 敏朗	平成29. 2. 27	3	同上	能美市長
評議員	栗 貴章	平成19. 6. 10	6	同上	野々市市長
評議員	前 哲雄	平成23. 4. 27	5	同上	川北町長
評議員	川口 克則	平成31. 2. 14	2	同上	内灘町長
評議員	小泉 勝	令和 4. 2. 14	1	同上	志賀町長
評議員	宮下 為幸	令和 3. 4. 3	2	同上	中能登町長
評議員	吉村 光輝	令和 4. 2. 14	1	同上	穴水町長
監査委員	岸 弘市	平成12. 2. 21	8	令和 6. 2. 20	石川産業保健総合支援センターカウンセリング相談員
監査委員	高澤 良英	平成27. 2. 21	3	同上	七尾商工会議所常任顧問
監査委員	江口 介一	令和 5. 2. 14	1	令和 8. 2. 13	株式会社江口組取締役会長
本社代議員	田谷 正	令和 4. 2. 14	1	令和 7. 2. 13	医療法人社団田谷会理事長
本社代議員	中村 健一	令和 4. 2. 14	1	同上	石川県鉄工機電協会会長
本社代議員	西村 徹	平成28. 2. 14	3	同上	元小松市長
本社理事	田谷 正	令和 5. 4. 1	1	令和 8. 3. 31	医療法人社団田谷会理事長

※印は支部長選出評議員

(順不同、敬称略)

役職名	氏名	当初就任年月日	備考
支部参与	徳田 博	令和 4. 4. 1	石川県副知事
支部参与	西垣 淳子	令和 4. 7. 1	石川県副知事
支部参与	塗師 亜紀子	令和 5. 4. 1	石川県健康福祉部次長
支部参与	西村 将	令和 4. 4. 8	石川県健康福祉部厚生政策課長
支部参与	表 賢二	令和 3. 4. 1	石川県健康福祉部医療対策課長
支部参与	坂口 由美	令和 5. 4. 1	石川県健康福祉部薬事衛生課長
支部参与	寶達 典久	令和 4. 2. 14	宝達志水町長
支部参与	大森 凡世	令和 4. 2. 14	能登町長
支部参与	小寺 洋右	令和 2. 4. 1	金沢市町会連合会事務局長
支部参与	普赤 清幸	令和 元. 7. 2	金沢商工会議所専務理事

(順不同・敬称略)

支 部 長	1 名	本 社 代 議 員	3 名
副 支 部 長	3 名	本 社 理 事	1 名 (代議員兼任)
評 議 員	32 名	支 部 参 与	10 名
監 査 委 員	3 名	計	52 名 (兼任を除く)